

令和2年度事業報告について

一般社団法人北部九州河川利用協会は、協会設立の趣旨に基づき、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県における一級河川の愛護及び環境整備並びに危機管理の普及を図る目的で、令和2年度に公益事業を実施しました。また、収益事業として筑後川、矢部川、嘉瀬川及び菊池川の公物管理、遠賀川等の河川管理関係業務を実施しましたので報告します。

I. 事業報告

I-1 公益事業活動の概要 別冊:令和2年度公益事業実施報告

(1)河川利用・管理・調査研究支援に関する活動

《技術蓄積・研究等》

■筑後川市民大学

「筑後川市民大学」は、一般市民の筑後川に対する関心を高めることを目的として、①誰でもいつでも筑後川流域の情報が手に入れることができること、②筑後川で活動する新しい人材を育てること、③市民の皆様に筑後川の魅力を伝え、誰でも筑後川を楽しめる筑後川づくりへの参加環境をつくりだすことに取り組んでいます。

令和2年度は、筑後川の土木遺産、観光資源、流域のイベント、橋、食など31を越える分野の1000件近いデータの収集を行いました。

■河川維持管理講習会

気候変動の影響で近年、雨の降り方が局地化・集中化していることから防災・減災において、日頃からの河川維持管理の重要性が高まっています。また、高度経済成長期に作られた多くの構造物が老朽化し、今後、耐用年数を迎える事になります。このような状況において、河川管理の担い手となる技術者を育成する役割は大きく、その技術力の向上を図ることを目的として河川維持管理技術講習会を開催しています。

令和2年度は、令和2年12月13日福岡市において河川維持管理講習会を開催し、河川維持管理の高度な専門知識を有する国土技術政策総合研究所、(一社)日本河川維持管理技術教育振興機構及び河川行政関係者より講師をお招きし、最新の知識を学びました。講習会は、会場直接講習とWeb講習により合計150名の聴講がありました。

《管理・調査・研究支援》

■住民目線でのより良い河川管理検討

九州の河川を住民の目線でより良く維持・管理するため、河川技術者の育成

と技術力向上に重点をおいた講習会や研究会に取り組んでいます。

研究会では、河川維持管理技術者資格を保有する地場コンサルや行政経験者により、河川管理における課題に対する解決方法の検討や、実践的なアプローチを行いました。

【九州河川技術に関する講習会】

九州の河川に携わる技術者の育成を行う事で維持管理に関する質の高い知識を広め、定着させることを目的とした講習会を行っています。講習会では基本的な技術から今後必要となる維持管理の在り方、技術者の研鑽方法など多岐にわたり、様々な立場の河川技術者に対しても、有益となる講習会を目指しています。

令和2年度は、令和2年10月22日に福岡市において開催し、河川について高い見識をもつ有識者を招き、河川管理に携わるすべての人が理解しておくべき基本的な知識を聴講しました。今年はコロナ禍の情勢から会場参加者を制限し、オンライン配信を行い160名（WEB102名）の聴講がありました。

【九州河川維持管理技術研究会】

河川維持管理に関わる人材、予算ともに切迫した状況に対応した効率的な河道管理を目指すため、九州各地で活動する河川維持管理技術者を集め、河川維持管理に関する諸課題に関する議論を重ね河川技術の向上を図ります。

令和2年度は、毎月1回のワーキング会議を開催し、洪水による河道への影響などを中心に議論を行いました。11月19日には有識者を招いた研究会本会議を開催し、参加者60名と更なる議論を深めることができ、より効率的な河川管理について理解するきっかけを得ることができました。

■筑後川の起源(成り立ち)研究

筑後川の「成り立ち」を学ぶことにより、今後の筑後川とその流域の暮らしや経済を考え地域の将来を見通すことを目的に、筑後川の古代から現在までの歴史、地誌、文化、産業などを系統的に整理し、地域の「まちづくり」にも活用できる基礎資料の作成を行います。

令和2年度は、令和2年11月14日に「第4回筑後川成り立ち(歴史)ワーキング会議」を開催しました。会議では、久留米市文化財保護課より講師をお招きし「軍都・久留米市の成立と筑後川」、「歴史は筑後川とともに」をテーマとして意見交換を行い、久留米の歴史は筑後川と深い関係があることを学びました。

■河川市民活動人材育成システム検討

筑後川流域の活性化を図るべく活動している市民団体は多々ありますが、どの団体も構成委員の高齢化及び地域単位の活動となっている傾向が顕著となっ

ており、今後の「流域」としての活動活性化をめざし筑後川流域の上下流連携を推進するとともに、若い人材(次世代)を発掘・育成していくことを支援しています。

令和2年度は、令和3年2月7日に「オンライン」で「第3回 River Crew Festival in 筑後川 ONLINE」を開催しました。これから川の活動に携わろうとする新しい人材も含めた筑後川上流から下流までの若手の参加があり、「筑後川流域連携」についての意見交換を実施しました。

■河川市民団体活動公開講座

河川における市民団体等の次世代人材発掘と育成、活動の輪を広げることが目標に、次世代メンバーが集い、次世代の「わ」を繋げ新たな川での活動の可能性を考える活動を支援しています。

令和2年度は、2月20日に、コロナウィルス禍感染防止のためオンラインで「第3回 River Crew Festival ONLINE」を開催し、始めて参加する方も多く101名の参加がありました。

第1部では、九州地方整備局河川部長による講演、第2部はオンラインで流域ごとの5班に分かれグループワークを行いました。

■インフラツーリズムを活用した地域活性化の可能性検討

九州内においても河川のインフラを活用した「インフラツーリズム」に期待が集まっていることから、過疎化する地域・流域の活性化と流域の担い手の発掘・育成を目的に、「インフラツーリズムを含めた新たな流域ツーリズムのあり方」を提案するインフラツーリズムに関する研究会活動を行っています。

令和2年度は、令和2年9月18日に「サイクルツーリズムの可能性と地域の課題」について、令和3年1月16日には「インフラツーリズムと河川利用～アイデア創出会議」について、サイクルツーリズムを中心とした河川利用の可能性についての議論を行いました。

■河川利用アンケート調査

筑後川など各流域内に居住する一般住民の河川に対するニーズを把握するため、令和元年度に北部九州4県を対象として「河川空間における河川利活用に対する市民ニーズ」や「今後の河川などに関する住民活動のあり方、あるいは活動への支援ニーズ」についてのWEBアンケート調査分析を行いました。

令和2年度は、令和3年2月16日から19日に北部九州4県を対象に、コロナ禍における筑後川河川敷の利活用について、Web アンケートによるニーズの把握を行い、15歳以上の男女1000名からの回答を得ました。

(2) 河川利用推進支援に関する活動

《美化活動支援》

清掃活動に必要な資材の現地での小運搬に活用し、スムーズな清掃活動が実施されるよう、リアカーを購入し必要に応じ貸し出すこととしました。また、新型コロナウイルス感染対策として、参加者間での蔓延防止のため、新型コロナウイルス対策衛生セット500セットを購入しました。

《広報活動支援》

■流域市長対談等

住民が流域の課題を理解し、共通の認識を持って取り組むよう筑後川流域を中心に北部九州流域の首長対談等を実施し、対談内容について筑後川新聞等を活用して広報しています。

令和2年度は、令和2年10月9日に「真・地方の時代」を考える講演会及び流域情報交換会を開催しました。

第1部講演会として、九州大学馬奈木教授による「新国富論」について、九州地方整備局藤井河川部長による「ミズベリング視点から見たwithコロナ、afterコロナ下におけるローカルアドバンテージを生かす工夫」についての講演をいただき、第2部では、講演いただいた両氏と北部九州4県の7首長、当協会会長、理事長を交え流域情報交換会を行いました。

■筑後川広域広報活動

筑後川とその周辺地域の住民らによる活発な地域づくりに対し、情報の共有化を図ることを目的に、当協会の支援事業等の情報を提供しています。

令和2年度も「筑後川新聞」紙面上に代表的な住民活動事例や当協会の支援事業等の記事を掲載し、流域住民へ川での活動を紹介しています。

■住民目線による流域情報の発信(九州川の情報誌発行)

河川の特徴豊かな魅力を様々な切り口で紹介し地域に住む人々に河川に対する興味関心を高めることを目的に、平成30年より発行しています。

令和2年度は、コロナ禍のためオンラインによる編集会議を重ね情報誌第3号を発行しました。第3号では、新型コロナウイルス感染や令和2年7月豪雨災害により活動実施が厳しいなか、災害復旧に取り組んだ活動やコロナ禍に対応した活動をはじめ、河川に携わる団体の地域に貢献する姿や思いをより反映できた冊子となりました。

《河川利用推進支援事業》（公募事業・NPO等活動支援）

北部九州の各流域で活動している市民団体やNPO組織に対して、広く公募により呼びかけを行い、河川利用・河川愛護・水防災に関する各種の活動に対して支援を行っています。

令和2年度は、29団体への支援を行いました。

(3)水防災・危機管理に関する活動

《水防災調査・研究及び自助・共助支援活動》

■九州北部豪雨支援(朝倉支援)

平成29年により甚大な被害を受けた朝倉市の復興支援として、被災地市民の活力につながる支援を行っています。

令和2年度は、朝倉市の地元実行委員会が計画した「あさくら復興サイクリングイベント」の支援を行いました。当イベントでは、朝倉地域内に設置されたチェックポイントをサイクリングで巡るもので2週間にわたり152名の参加がありました。

■花月川流域水防災活動支援

平成24年(2回)、平成29年に被災を受けた日田市花月川流域における「自助・共助」の意識を高め、住民自らの早めの避難行動に繋がることを目指し、花月川流域での流域水防災活動への支援を行っています。

令和2年度は、出水期前のアンケート調査、出水後の情報交換会により花月川流域自治会の情報共有を行うとともに、自治会や周辺地域への防災情報共有につながる「防災かわら版」作成への支援を行いました。

■河川活動団体水防災活動支援

平常時における水防災意識の再構築に向けての啓発活動や避難対策に向けての河川で活動する団体による共助活動を充実させることを目的に、甚大な被害を受けた流域への復旧支援活動を行っています。

令和2年度は、令和2年7月豪雨により被災した球磨川流域への被災地支援に名乗り出た団体により組織された「防災・災害支援チーム」が実施する水防災活動への支援を行い、平常時に備えておくべきことについて把握することが出来ました。

<内閣府への報告>

【公益目的支出計画実施報告書】

【令和2年度(2020/4/1 から 2021/3/31 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	410,026,435 円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	232,923,071 円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	199,958,164 円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	34,596,732 円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	1,631,825 円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	177,103,364 円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由	注
令和2年度の公益目的支出の額は 34,596,732 円であり、当初の見込額 27,280,000 円を約 7,317 千円上まわる執行額である。また、実施事業収入の額は当初の見込額より約 168 千円減となった。令和2年度公益目的収支差額は、計画を上まわり順調に執行していると考ええる。	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の	(1)計画上の完了見込み	令和13年3月31日
完了予定事業年度の末日	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	410,026,435 円	410,026,435 円	410,026,435 円	410,026,435 円	410,026,435 円
公益目的収支差額	178,360,000 円	199,958,164 円	203,840,000 円	232,923,071 円	229,320,000 円
公益目的支出の額	27,280,000 円	44,961,924 円	27,280,000 円	34,596,732 円	27,280,000 円
実施事業収入の額	1,800,000 円	1,923,623 円	1,800,000 円	1,631,825 円	1,800,000 円
公益目的財産残額	231,666,435 円	210,068,271 円	206,186,435 円	177,103,364 円	180,706,435 円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）における「実施事業会計」の内訳を以下に記載します。

令和2年度 公益事業の実施結果

(1) 河川利用・管理・調査研究事業〔◎主催事業、○共催事業、●実行委員会〕（単位：千円）

事業名	実施内容	予算額	実施額	実施機関	備考
技術蓄積・研修等	◎筑後川市民大学	300	396		
	○河川維持管理技術講習会	600	810	九州連絡会議	
	◎筑後川水共同域の活動基本情報検討	500	0	NPO法人有明海再生機構	
	●九州建設技術フォーラム	100	102	実行委員会	
管理・調査・研究支援	◎住民目線でのより良い河川管理検討 九州河川技術に関する講習会	800	946	九州河川維持管理技術研究会	
	◎住民目線でのより良い河川管理検討 九州河川維持管理技術研究会	1,000	1,253	九州河川維持管理技術研究会	
	◎筑後川の起源（成り立ち）研究	1,100	1,100		
	●河川市民活動人材育成システム検討	500	159	筑後川次世代会実行委員会	
	●河川市民団体活動公開講座	500	113	実行委員会	
	◎九州ミズベリング・親水性の研究会	500	0	研究会	
	◎九州水環境研究会	500	0	研究会	
	◎インフラツーリズムを活用した 地域活性化の可能性検討	1,200	1,200	委託	
◎河川利用アンケート調査	1,000	798	委託		
小 計		8,600	6,877		

(2) 河川利用推進支援事業〔◎主催事業、○共催事業、●実行委員会〕（単位：千円）

事業名	実施内容	予算額	実施額	実施機関	備考
美化活動支援	◎清掃資材購入	500	442	協会経理	
	その他	100	81	協会経理	
広報活動支援	◎流域市長対談	500	1,346		
	○筑後川広域広報活動	600	600	NPO法人 筑後川流域連携倶楽部	
	●住民目線による流域情報の発信	800	330	九州川の情報実行委員会	
	◎河川愛護活動	1,200	603		
河川利用推進支援事業	公募事業（応募42 → 24 追加 +5 支援計 29）	16,600	7,816	次ページのとおり	
河川環境整備支援		0	0		
小 計		20,300	11,218		

(3) 防災・危機管理支援に関する事業〔◎主催事業、○共催事業、●実行委員会〕（単位：千円）

事業名	実施内容	予算額	実施額	実施機関	備考
水防災・危機管理支援	●九州北部豪雨支援（朝倉支援）	300	210	実行委員会	
	●花月川流域水防災活動支援	800	1,033	実行委員会	
	●河川活動団体水防災活動支援	0	405	実行委員会	
小 計		1,100	1,648		

合 計		30,000	19,743		
間接経費		15,000	14,854		
総 計		45,000	34,597		

令和2年度 河川利用推進支援事業（公募事業）実施結果 （1/2）

(2) 河川利用推進支援事業（公募事業・NPO等活動支援） （単位：千円）

事業名	実施内容	予算額	実施額	実施機関	備考
公 募 事 業 N P O 等 活 動 支 援	①第34回筑後川フェスティバル in 神崎市	1,500	0	筑後川フェスティバル実行委員会	
	②第3回遠賀川流域フェスタ	1,000	985	遠賀川流域フェスタ実行委員会	
	③緑川流域会議体験事業	1,000	0	緑川流域会議体験事業実行委員会	
	④第1回松浦川流域フェスタ	500	0	松浦川流域連携実行委員会	
	⑤御笠の自然を宝満川から学ぶ	300	35	御笠まちづくり協議会	
	⑥児童による舟下り体験	200	97	五庄屋の精神に学ぶ会	
	⑦川底探検レッツゴー!!	300	300	吉井町川遊びの会	
	⑧矢部川流域河川学習カレッジ	300	203	特定非営利活動法人 がんばりよるよ星野村	
	⑨白川流域キッズ探偵団	500	500	特定非営利活動法人 白川流域リバーネットワーク	
	⑩菊池川自然塾2020年度事業	400	196	特定非営利活動法人 菊池川自然塾	
	⑪こうら水辺の楽校さいこう隊	400	0	エコアクト筑後川	
	⑫大刀洗町川を好きになろう！プロジェクト (川に学び、川を楽しむ)	300	66	のぼせもの会	
	⑬ピオトープ「春の小川」の生き物	400	400	特定非営利活動法人 直方川づくりの会	
	⑭川のぼり～ふしぎ発見六角川～	300	0	森と海を結ぶ会	
	⑮つるさき環境フォーラム	150	57	乙津川水辺の楽校運営協議会	
	⑯山国川で遊ぼう！ (カヌー体験、おサカナ観察会、水辺の安全教室)	300	0	特定非営利活動法人 耶馬溪の自然と景観を守る会	
	⑰川の自然大好き～環境学習の手引き～製作	350	333	特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会	
	⑱延寿寺川の清掃、法面の除草作業と ハゼ並木保全及び紅葉期のライトアップ事業	150	137	あ！つまん会	
	⑲ウオーターフェスティバル2020	400	0	ウオーターフェスティバル実行委員会	
	⑳河川愛護 城原川ハンギーマつり	400	0	城原川ハンギーマつり実行委員会	
	㉑船小屋地区賑わいづくり	400	0	船小屋地区かわまちづくり協議会実行委員会	
	㉒遠賀川中流域ナイトリバーin小竹	500	416	特定非営利活動法人 小竹に住みたいまちづくりの会	
	㉓清流七瀬川を守り、次世代へつなぐ活動	500	202	ななせ交流会	
	㉔緑川流域新聞	500	500	緑川清流会	
	㉕菊池川ゆったり空間・湯ったり時間プロジェクト	250	0	特定非営利活動法人 山鹿もてなしたい	
	㉖筑後川大石地区賑わいづくり	350	0	大石かわまちづくり実行委員会	
	㉗舟運を通して人と川を繋ぐ ～川での福祉と教育・まちと川の関わり～	300	0	特定非営利活動法人 筑後川流域連携倶楽部	

令和2年度 河川利用推進支援事業（公募事業）実施結果 （2/2）

（2）河川利用推進支援事業（公募事業・NPO等活動支援） （単位：千円）

事業名	実施内容	予算額	実施額	実施機関	備考
公募事業 NPO等活動支援	㊸竹の有効活用推進事業の推進	200	0	筑後川-竹・筏・夢プロジェクト	
	㊹筑後川流域活性事業「船で筑後川歴史遺産巡り」	350	350	特定非営利活動法人 FU-sus21	
	㊺遠賀川と飯塚河川敷を市民の憩いの場にしよう会 地域活性イベント	400	0	遠賀川と飯塚河川敷を市民の憩いの場にしよう会	
	㊻のおがたアウトドアであそび in遠賀川	400	381	のおがたわく実行委員会	
	㊼遠賀川・中島の自然再生と環境保全啓蒙活動	300	0	中島自然再生協議会	
	㊽遠賀川親めだかプロジェクト	400	400	遠賀川親めだかの会	
	㊾水辺施設「ウォーターフロントこまなき」利活用推進事業	250	110	駒鳴集落を守る会	
	㊿町切水車の保存及び地域交流に関する活動	150	150	町切水車保存会	
	㊿七瀬川中流域の保全整備と地域づくり	300	300	特定非営利活動法人 アシストバルオオイト	
	㊿球磨川ブランディング事業	200	0	特定非営利活動法人 くもとあそびLABO	
	㊿28水に学ぶ ～過去から学び未来へ伝え次ぐ～	350	350	憩いの園大堰交流 センター管理運営委員会	
	㊿災害は歴史に学び逃げ後れゼロの地域を目指す	300	0	福富地区自治協議会	
	㊿白木地区復興支援 「新しい白木地区地域づくり」	250	0	白木地区復興支援協議体	
㊿柳川掘り割を二ホンウナギのサンクチュアリするための 研究と活動	500	500	福岡県立伝習館高等学校		
㊿佐賀県の河川に生息する淡水魚調査	300	146	佐賀県立鳥栖高等学校		
小計		16,600	7,115		

令和2年度 河川利用推進支援事業（追加公募）実施結果

（2）河川利用推進支援事業（公募事業・NPO等活動支援） （単位：千円）

事業名	実施内容	当初	実施額	実施機関	備考
NPO公募事業	①みずのうつわ！ ～繋がり紡いで 生き物わくわく、僕らドキドキ大作戦～	0	162	ちくごがわっしょい	
	②小学生による、筑後川下流「大川の駅 夢プラン」	0	138	大川未来塾	
	③「菊池川あそび～川の恵みを感じよう～！開催事業	0	192	菊池川おおかわの会	
	④子どもを対象にした 筑後川中流域での魚釣り・魚とり教室及び大会	0	19	バルキッズくるめ	
	⑤遠賀川に鮭が帰ってくる清流作りを目指す	0	190	遠賀川源流サケの会	
小計		0	701		

＜収益事業活動の概要＞令和2年度は、筑後川河川事務所発注等の「公物管理事業」及び「コンサルタント業務」を、全職員により取り組みました。

令和2年度 実施業務			
分類	業務名	工期	単年度受注額
公物管理	筑後川・矢部川水系河川巡視等支援	R2年業務	—
	筑後川・矢部川水系堰管理支援	R1・R2年業務	—
	筑後川・矢部川水系河川許認可審査支援	R1・R2年業務	—
	嘉瀬川・佐賀導水路河川巡視支援	H30～R2年業務	—
	嘉瀬川大堰管理支援	R2年業務	—
	武雄河川事務所管内許認可審査支援	R2年業務	—
	六角川水系河川巡視等支援	R2・R3業務	
	松浦川水系河川巡視等支援	R2・R3業務	
	菊池川水系河川許認可審査支援	R2年業務	
	小計		368,452,000円
コンサルタント業務	遠賀川水系樋門樋管調査検討業務	R2年業務	—
	遠賀川持続的管理実施計画検討業務	R2年業務	—
	住民団体等と連携した河川管理検討業務	R2年業務	—
	筑後川河川維持管理検討業務	R2年業務	—
	筑後川流域変遷調査検討外業務	R2年業務	—
	河川維持管理検討業務	R2年業務	—
	白川・緑川河川管理施設監理検討業務	R2年業務	—
	大分川・大野川水系工作物監理検討業務	R2年業務	—
小計		123,082,300円	
合計額		491,534,300円	

Ⅱ. 協会運営活動の概要

(1) 定時総会（会員出席3名、委任状150名、理事出席3名）

・今年度の総会は、新型コロナウイルスの影響により、委任状提出者がほとんどであったが、福岡市において開催し、以下とおり審議を行い承認されました。

開催日 令和2年6月12日

審議事項

- 1) 令和元年度事業実施報告及び決算報告について
- 2) 新年度役員について
- 3) 会費の拠出について

報告事項

・令和2年度事業計画及び収支予算書について

(2) 理事会

・第1回(理事出席6名、監事出席1名)

理事会は、福岡市において開催し、以下のとおり審議を行い承認されました。

開催日 令和2年5月25日

審議事項

- 1) 令和元年度事業実施報告及び決算報告について
- 2) 令和2年度事業計画及び収支予算について
- 3) 新年度役員について
- 4) 会員の入退会について
- 5) 会費の拠出について
- 6) 令和2年度定時総会の開催について

・第2回(理事出席6名、監事出席2名)

理事会は、福岡市において開催し、以下のとおり審議を行い承認されました。

開催日 令和2年12月10日

審議事項

- 1) 令和2年度事業実施状況について
- 2) 令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 3) 会員の入退会(案)について
- 4) 業務執行状況報告について

(3) 令和2年度 基金運営委員会

適正な公益事業の実施のために、第三者機関として設置された委員会

- ① 第1回委員会は、新型コロナウイルスの影響を考慮し会議は開催せず、書面による持ち回り審議を行い承認されました。

承認日 令和2年4月30日

審議事項

- 1) 令和2年度公益事業実施計画
- 2) 令和2年度事業計画

決議者

委員長	久留米大学	藤田 八暉
委員	熊本大学	田中 尚人
	西日本新聞	進藤 卓也
	(株)ちくぎん地域経済研究所	空閑 重信
	(有)ぷらざ TOBU	齊藤美代子
	筑後川河川事務所長	松木 洋忠

- ② 第2回委員会は、以下のとおり委員会の審議が行われ承認を得ました。
また、引き続き現地視察を実施しました。

日 時 令和2年11月26日

会議場所 協会会議室

<審議内容>

- 1) 議事録確認
- 2) 令和2年度公益事業実施報告(中間)
- 3) 令和2年度公益事業実施計画の変更
- 4) 令和3年度公募事業の募集について

視察場所 球磨川災害現場

出席者 藤田八暉委員長、山崎健委員、空閑重信委員

(4) 令和2年度 事業評価委員会

協会運営の透明性確保のために第三者機関として設置された委員会

- ① 第1回委員会は、新型コロナウイルスの影響を考慮し会議は開催せず、書面による持ち回り審議を行い承認されました。

承認日 令和2年4月28日

審議事項

- 1) 平成31年度事業実施報告
- 2) 令和2年度事業計画

決議者

法律	: 弁護士	植田 正男
金融機関	: (株)ちくぎん地域経済研究所	溝上 浩文
税理士	: かわぐち税理士事務所	河口 正剛
有識者	: 久留米大学	児玉 昌己

- ② 報告会及び現地視察を以下のとおり実施しました。

日 時 令和2年11月12日

会議場所 宇曾山荘

<報告内容>

- 1) 第1回委員会議事録報告
- 2) 資産の運用について
- 3) ななせ交流会との交流

視察場所 大分川ダム(ななせダム)

出席者 植田正男委員長、溝上浩文委員、河口正剛委員

(5) その他

《職員研修の充実》

職員の公共モラルの意識向上、技術力のアップに努め、中立性、公平性、守秘義務の周知に関する、職員研修を図ります。

(協会規則の徹底・技術力アップ10回)

《協会としての技術力の向上》

協会が目指す筑後川等の河川環境の改善、水管理並びに防災に関する最新の技術の蓄積と、ノウハウの取得を目指すと共に管理技術の研鑽を図ります。(技術研修2回)

Ⅲ. 附属明細書

事業報告の内容について、補足すべき重要な事項はありません。